土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　主要地方道　西城比和線　地質調査業務委託（道路改良・単独）

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　道路　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	No.13'	調査位置	広島県庄原市比和町三河内地内			北緯	34° 58' 08.0760"
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所			調査期間	令和5年 8月 1日～ 令和5年 8月 2日	東経	133° 02' 28.6880"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 657.45m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	地盤勾配	30° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	TOHO D-05
総削孔長	10.00m								エンジン	ヤンマーディゼルNFD-11EK	ポンプ	丸山 MS-330

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度—N値図	N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
1	656.55	0.90		黒ボク		黒灰			有機質な黒ボクが表土を成す。 GL－0.50mまで植根混入。															
	655.90	1.55		火山灰質砂		黄褐		rdl	黄褐色の火山灰質砂（きび土）														
2	654.80	2.65		礫混り砂質粘土		茶褐			砂が多く混じる粘土（崩積土）。 凝灰岩礫が混じる。														
3				風化ひん岩		茶灰～暗灰			礫状～粘土状を呈すひん岩。基本的にはひん岩が分布するが、所々に凝灰岩が礫状に存在する。 GL-4.50～5.00m、5.70～5.95m、6.50m、7.45～7.90mには角礫状に凝灰岩が存在。 GL-3.65m、5.60m、8.75m、8.85～9.00m付近には白色の粘土状部が存在する（元々、粘土脈が存在した部分が風化した様相）。 GL-9.45～9.75mはコアが採取されず。 GL-9.75～10.00mは砂状～土砂状となり、緩い状態となっている。	8/1 5.20 8/1 5.40 8/2 8.00											8/1 8/2
10	647.45	10.00																					
11																							
12																							
13																							
14																							
15																							